

# 藤田真央

ピアノコンサート

2018年4月28日(土)

開場14:30/開演15:00

入場料4,000円/学生2,000円

(全席自由席)

★ドリンク(コーヒー・紅茶・日本茶)、  
お菓子付き

## Profile

藤田真央 (ピアノ) Mao Fujita (Piano)

1998年東京都生まれ。3歳からピアノを始める。2017年、東京音楽大学1年在学中に、第27回クララ・ハスキル国際ピアノ・コンクールで優勝。併せて「青年批評家賞」「聴衆賞」「モダンイズム賞(新曲賞)」の特別賞を受賞し、一躍世界の注目を浴びる。

2010年台湾で開催された世界クラシックピアノ・コンクール(ジュニア部門)優勝、全日本学生音楽コンクール(小学校の部)第1位、2013年オーストリアで開催されたロザリオ・マルチアーノ国際ピアノ・コンクール、2015年中国で開催された若い音楽家のためのモーツァルト国際音楽コンクール第1位、2016年浜松国際ピアノアカデミーコンクール第1位、アメリカで開催されたジーナ・バッカウアー国際ヤングピアノコンクール第3位など、国内外での受賞を重ねる。

2013年津田ホールにて初めてのリサイタルを開催。以降、国内はもとより、ショパン国際音楽祭(ポーランド)、世界のアッジ音楽祭(イタリア)、バート・ラガツ次世代音楽祭(スイス)などの音楽祭に招待されリサイタルを行っている。

これまでに、リッカルド・ミネーシ、現田茂夫、飯森範親、大友直人、レイ・ホトダ、クリスティアン・ツァハリアス、リュウ・ジア各氏の指揮により、東京都交響楽団、東京交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、ユタ交響楽団、ローザヌ室内管弦楽団、マカオ管弦楽団等のオーケストラと共演。

2013年には、ナクソス・ジャパンから若い世代の音楽家のための新レーベル「ナクソス・クレッシェンド」第1号として、デビューアルバム「MAO FUJITA」(NYCC-10001)、2015年には「ヤング・ヴィルトゥオーゾ」(NYCC-27296)をリリースし、高い評価を得ている。現在、特別特待奨学生として東京音楽大学1年ピアノ演奏家コース・エクセレンスに在学中。ピアノを野島稔、鷺見加寿子、佐藤彦大の各氏に、ソルフェージュを西尾洋氏に師事。

平成29年度公益財団法人青山財団奨学生。

新シリーズのトップバッターは  
期待の新人、藤田真央。

Program \*曲目・演奏順は変更になる場合がございます。

ドビュッシー：《版画》

ドビュッシー：ピアノのために

リスト：ハンガリー狂詩曲 第12番 嬰ハ短調

ショパン：4つのマズルカ Op.24

ショパン：ピアノソナタ 第3番 口短調 Op.58



Mitake  
Sayaka  
Salon



©Shigeto Imura

# 藤田真央

ピアノ  
コンサート

2018年  
4月28日(土)  
開場14:30/開演15:00  
入場料4,000円/学生2,000円  
(全席自由席) ★ドリンク(コーヒー・  
紅茶・日本茶)、お菓子付き

## 研ぎ澄まされた音、青春溢れる薫風のような コンテキスト、そして緻密な楽曲分析

——藤田真央の愉悦の世界

藤田真央さんといえば、難関なことで知られるクララ・ハスキル国際ピアノ・コンクール(今年の第27回、併せて3つの特別賞)に優勝され、一挙に世界的な注目を集めている現在19歳のピアニストです。

ちなみにクララ・ハスキル国際ピアノ・コンクールとは、2年に1回開催され1位のみが受賞するという世界でもっとも難関なコンクールの一つで、日本人としては、ルツェルン音楽院教授の坂上博子、国際的なピアニストとして活躍中の河村尚子、そして藤田真央さんが3人目です。

そんな彼に今回のプログラムに寄せてメッセージをいただきました。

「前半はドビュッシーが中心ですが「ドビュッシー独自の音の響き」が聴きどころです」

そんな彼は、音とその響きに対して特別なこだわりがあるようです。

「すべての音を支配し、どういう音を出したいのか、どういう響きにしたいのかを常に考えています」

音がきれいなピアニストはたくさんいますが、藤田真央さんは「音に対する凄まじいまでの集中力」が並大抵のものではないようです。

「研ぎ澄まされたきれいな音」というような平凡な表現では足りず、「気高さや厳しさ」までも同時に感じとることができるといったらよいのか…そんな音が藤田真央さんのピアノ演奏から聞こえてくる音です。

さらに藤田真央さんの演奏の際立った特長としては、よく「芸術家は成熟すればするほどすばらしい境地に達する」とか言われますが、真央さんの場合は、テクニックではなく芸術性に、「若さ」というものがとてつもない魅力となって鮮烈に現れています。こういう例は希有なことといえるかもしれません。

そんな真央さんにその秘訣を伺ってみました。

「常に音のことは考えています、どう響くか…。お客様によってはテクニックをふんだんにアピールするような演奏を喜ばれる方もいらっしゃると思います。ですが、自分はテクニックの前に、まず音がきれいであるか、音がどれだけ魅力的であるかを考えます」 そう語る藤田真央さんの演奏は「音」が魅力的なだけでなく、曲を構成するうえで欠かせない「緻密さ」も卓越しています。

「ショパンのソナタ第3番は非常にきめ細かい作品です。ほとんどフーガのような作品です。当時、ショパンがあの曲を作曲するときにピアノの脇に置いてあったのがバッハの平均律だったという逸話も残っているくらいですから…。かなり影響は受けていると思いますね。最初からずっと半音階が随所に現れています。バロックのような、そんな魅力があるのもこの作品の聞きどころですね」 比類なく研ぎ澄まされた美しい音、この上なく爽快な薫風のような若々しさを感じることができるコンテキスト、そして緻密な楽曲分析——このすべてが現在の藤田真央さんの魅力です。目を見開き、耳を澄ませ、全身で、藤田真央さんによる愉悦に浸りましょう。(見澤沙弥香)

123 series  
美竹清花さん・ワンダースター・シリーズ (vol.1)



日本のトップクラスの若手演奏家が、  
こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。  
美竹清花さんが追求する“本物の音楽”は、  
演奏者と参加者とわたしたちの、  
三位一体の努力と対話から生まれます。

誕生。  
クラシック音楽サロン、  
渋谷駅、  
宮益坂、  
徒歩2分

Mitake  
Sayaka  
Salon



●お問い合わせ

株式会社ILA (美竹清花さん)  
東京都渋谷区渋谷1-12-8 (〒150-0002)  
☎ 03-6452-6711 (平日 9:00-18:00)  
070-2168-8484 (時間外可)  
Fax 03(3409)0188

